

令和2年 新年のご挨拶

毛呂山町長 井上 健次



令和2年、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましてはご家族お揃いで新しい令和の時代の新年をお迎えのことと心よりお喜びを申し上げます。

昨年10月12日、台風19号が日本に上陸し、西日本から東日本の太平洋側を中心に激しい雨が降り、関東、東北地方を中心に13の都県で大雨特別警報が発表されました。

この記録的な大雨によって71の河川で堤防が決壊し、9万棟に及ぶ家屋が浸水による被害を受けただけでなく、98人の尊い命が失われ、未だ3人の方が行方不明という近年にない大災害となっていました。

亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われたすべての皆様に衷心よりお見舞いを申し上げます。

毛呂山町では10月12日午後1時に災害対策本部を立ち上げ、町内に10か所の避難所を開設、831人の町民の皆様へ避難していただきました。

その動きと町内の被害状況におきましては、先月号（令和元年12月号）の広報もろやまでお知らせいたしました。災害に対する「備え」について新たな問題を知ることとなりました。

避難所の運営に関し様ざまなご意見をいただきました。硬い床の緩衝マッ

ト、不足した毛布、情報の不足、使用しづらいトイレ、避難所でのベットの扱い等々、町議会でも指摘をいただいております。できるだけ早い対処を執って参ります。

さて、記念すべき「改元」となった昨年は選挙の年でもありました。

4月に埼玉県議会議員選挙（西第。区においては無投票）、毛呂山町長選挙および毛呂山町議会議員選挙、7月に参議院議員選挙、8月に埼玉県知事選挙、10月に参議院議員補欠選挙が執行され、政治の節目となる年となりました。

私も4月の町長選挙におきまして当選の栄に浴することができ、3期目の町政運営に全身全霊で努めて参る所存ですので、町民皆様より変わらぬご指導とご鞭撻をお願いいたします。

毛呂山町は第五次総合振興計画の後期基本計画を進めておりますが、超少子高齢時代にあたり独自性を発揮させ、魅力あるまちづくりの実現に向け、大きな一歩を踏み出さずしてまいります。

その一つが国の進める「スマートシティ先行モデルプロジェクト」に、全国の15自治体に町としては唯一、毛呂山町が選ばれたことです。

この背景には、将来のまちづくりに必要な「立地適正化計画」を埼玉県内63市町村で一番最初に、全国1741

区市町村でも5番目に毛呂山町職員が自らの力で作り上げたことから始まっており、立地適正化計画で見えてきた毛呂山町が抱える「空き家問題」、「中心市街地の活性化」、「開発居住地区における遅れた交通問題」等々について、本町がどのように解決していくかが試されているものと認識しております。

「スマートシティ」とは、町が抱える様ざまな諸問題に対して、ICT（センサーなどを用いての情報処理や通信に関する技術）の新技术を活用しつつ、計画、整備、管理、運営等を行い、持続可能なまちづくりを行うことです。

この「スマートシティ」は、将来的にはすべての市町村、あるいは「世界の国々が取り組むこととなるまちづくり」と言っても過言ではないでしょう。

また、川角駅周辺地区整備事業も駅舎の詳細設計に入り、駅前広場から新設道路の詳細設計と大きく動き出す年であり、今後は地域の方々や川角駅を利用される多くの皆様のご理解とご協力を賜りながら、慎重に進めて参ります。

教育関係では、さらなる少子傾向を見据え、小学校6年間と中学校3年間の義務教育9年間を一体のものとして捉え、小中学校が目指す目標を共有し、協働し、連続性、発展性をもって毛呂山町の子どもの育成を進める小中

2019年の 毛呂山町の主な出来事

2月 埼玉医科大学医学部、短期大学、埼玉医療福祉看護専門学校の学生からなる毛呂山消防団「学生機能別団員」を発足。

ウィズもろやまにて毛呂山町交通安全母の会設立50周年記念式典を開催。

「次代に語り継がれるレガシー創出事業」の一環として、競泳の瀬戸大也選手が、母校である毛呂山町立泉野小学校にて交流会を開催。

4月 町内の全小中学校にコミュニティ・スクール導入。

毛呂山町長選挙および毛呂山町議会議員選挙を執行。

5月 在宅療養支援診療所 HAPPINESS 館クリニックに県内初のホスピスカー（緊急往診車両）が配備。

東原団地自然公園遊歩道の開通と「毛呂山町指定天然記念物」に指定されたヤマザクラを記念してお披露目会を開催。

井上健次氏が3期目の毛呂山町長に就任。

伊奈町、川島町とバラによる相互交流事業「3町バラ園巡りスタンプラリー」を開催。

6月 毛呂山町手話言語条例を制定。

7月 参議院議員選挙を執行。

韓国光州で行われた世界水泳選手権大会において、瀬戸大也選手が200m個人メドレー・400m個人メドレーで金メダル、200mバタフライで銀メダルを獲得し、2020年東京オリンピックの出場が内定。

8月 健康長寿に係る先進的な取り組み事例特別賞として、毛呂山町が埼玉県から表彰を受ける。

埼玉県知事選挙を執行。

10月 瀬戸大也選手に「毛呂山町特別栄誉賞」を授与。

台風19号が関東地方を直撃し、町内にも大きな被害がでる。

参議院議員補欠選挙を執行。

一貫教育を目指して参ります。

また、社会の変化に伴い、多様化・複雑化するニーズに、学校の教職員や教育行政だけで対応することは困難になっており、保護者や地域の皆様の支えが必要と考え、「コミュニティ・スクール」を導入しております。

夢をもち世界にはばたく毛呂山子どもたちのために、町が進める「未来を拓く人づくり（小中一貫教育）プロジェクト」にご理解とご協力をお願いいたします。

さて、今年は、いよいよ2020東京オリンピックが開催されます。昨年7月に韓国の光州で行われた世界水泳選手権大会において、毛呂山町出身の瀬戸大也選手が、男子200m個人メドレーおよび男子400m個人メドレーにおいて

金メダルを獲得、ならびに男子200mバタフライで銀メダルを獲得しました。これらの成績により、オリンピックへの出場が決まった瀬戸大也選手の活躍に全国民の期待が集まっております。

毛呂山町では、「瀬戸大也選手を応援する会」と共に、「2020東京オリンピック」毛呂山町出身選手支援会を組織して、オール毛呂山での応援体制を整えて参りますので、多くの皆様のご参加をよろしくお願いたします。

これまでの2期8年では、旧川角農協前の交差点改良工事からはじまり、都市計画道路の野久保線開通、県による新飯能寄居線全線開通と前町政から引き継いだ大きな課題の整備を終わらせることができました。

現在、県道交差点の改良を含む西大久保地内新設道路事業に着手しており、県施行の都市計画道路についても近隣市町と共に要望活動を進めております。

企業誘致においては、自動車部品等の製造企業(株)木屋製作所の誘致から操業がスタートし、東京近郊に飲食チェーンを展開する(株)福しんの毛呂山進出も決まり、その工場棟の建設が川角地区に急ピッチで進められています。

リネンサプライ等の事業を展開する(株)トーカイについては、来年度に詳細設計に入る予定と聞いており、その他の企業についても毛呂山町への動きが加速してきています。

国からの地方創生予算によって「桂木ゆず」のブランド化を進めることができました。95年以上の歴史を持つ「流

鎚馬」についても、国の無形文化財の指定を目指すよう町としての働きかけを進めて参ります。

結びに、今年度、毛呂山町では14人の方々が100歳になられ、100歳を超える方々は24人となる予定です。

まさに「人生100年時代」が到来し、高齢者の「健康長寿」への取り組みは町の大きな柱です。

さらなる介護予防事業を押し進め「日本一やさしい町もろやま」を職員一丸となって目指して参りますので町民皆様のご理解とご協力を心からお願いし、令和2年の年頭のご挨拶とさせていただきます。

毛呂山町長 井上健次